

# 男の居場所

森岡 正作

飽きもせで鶯笛を吹く売り子  
雛壇の置かれ男の居場所なし  
魚影なき園のせせらぎ牙返る  
春星につまづき歌ふ坂本九  
佃煮となり公魚の武骨かな  
咲くといふ噂を聞かず桜餅  
海岸に丁字路多し海猫渡る

## 隅に寒さ

卒業式の季節である。私が勤めていた学校は三月一日が定番であった。登四郎先生に「隅に寒さ残して終る卒業式」という御句がある。この隅にある「寒さ」については、同じ教師同士と言えば叱られそうであるが、実にわかるような気がする。文字通りの季節的な寒さもあるが、担任だったりすると「卒業式万歳」とはならない。一つの区切りがついた安堵感があっても達成感とはいかない。クラス経営の至らなかつた点、大学受験で失敗した生徒への思いなどが、後でがらんとした体育館に佇んだりしていると、寂しさとともに頭を擡げて来るのであった。言わば気持ちの隙間にあるような「寒さ」なのである。

この三月二十日、還暦を迎えた卒業生が集まるという。四十数年ぶりで名前を聞いても思い出せない人が多いと思うが、昔に感じた「寒さ」はもう微塵も感じられないだろうと、楽しみにしている。